



# タイの日本食品市場

2018年7月

# 目次

1. タイ・バンコクの概要
2. 日本からタイへの農林水産輸出
3. タイ・バンコクの日本食消費者
4. 日本食レストラン、小売店の概要
5. タイ政府による食品輸入規制
6. 品目別動向
7. 日本産食品を売り込むためのポイント
8. 関係する展示会および商談会
9. 新たなニーズおよび取り組み

# タイの一般情報①

人口：6,446万人(タイ内務省：2012年12月  
末時点)

首都：バンコク(同上、567万人、構成比  
9.0%)

民族：大多数がタイ族、その他華僑、マレー  
族、山岳少数民族等

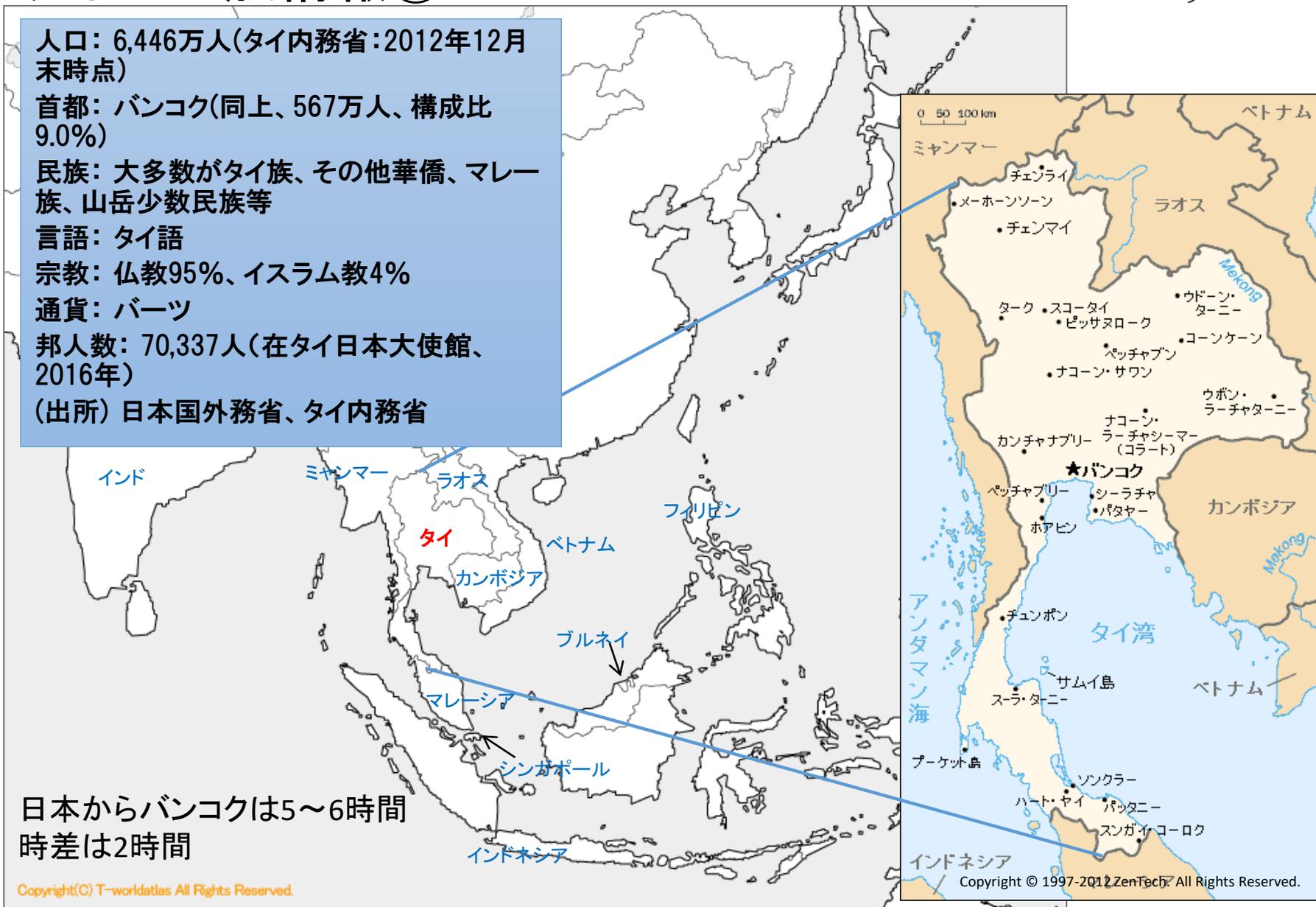
言語：タイ語

宗教：仏教95%、イスラム教4%

通貨：バーツ

邦人数：70,337人(在タイ日本大使館、  
2016年)

(出所) 日本国外務省、タイ内務省



日本からバンコクは5～6時間  
時差は2時間

Copyright(C) T-worldatlas All Rights Reserved.

Copyright © 1997-2012 ZenTech. All Rights Reserved.

# バンコクの概要



サイアムエリア  
(ラマ1世通り)



アソクエリア  
(スクムビット通り)



ドンムアン旧国際空港(中心地から約20km)  
アユタヤ県(バンコクから約70km)

日本人学校

旧市街

日本人居住区

ビジネス・金融街

スワンナプーム国際空港  
(中心地から約23km)

王宮、エメラルド寺院

シーロムエリア  
(シーロム通り)



写真： ジェトロ・バンコク事務所撮影

出所： Google Mapを基にジェトロ・バンコク事務所作成

# 日本からの農林水産物輸出先としてのタイの地位

(単位: 億円)

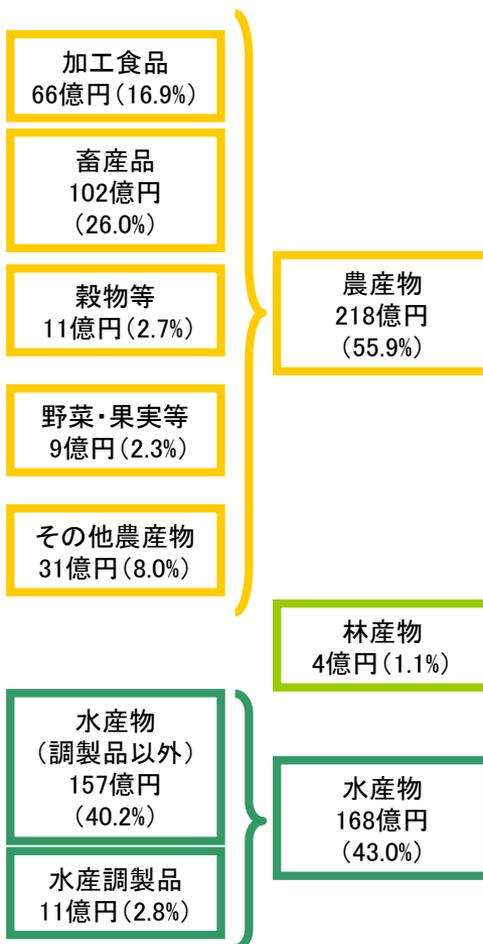
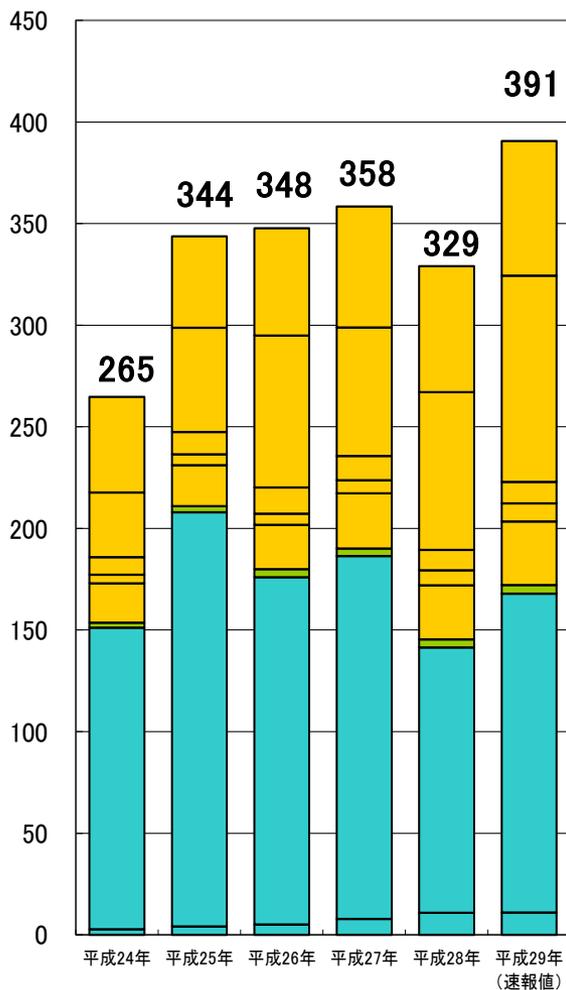
順位	国名・地域	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	前年比
1位	香港	1,250	1,343	1,794	1,853	1,877	1.3 %
2位	アメリカ合衆国	819	932	1,071	1,045	1,116	6.8 %
3位	台湾	735	837	952	931	838	-10.0 %
4位	中華人民共和国	508	622	839	899	1008	12.1 %
5位	大韓民国	373	409	501	512	597	16.6 %
6位	ベトナム	293	292	345	323	395	22.3%
<b>7位</b>	<b>タイ</b>	<b>344</b>	<b>348</b>	<b>358</b>	<b>329</b>	<b>391</b>	<b>18.8 %</b>
8位	シンガポール	164	189	223	234	261	11.5 %
	世界(計)	5,506	6,117	7,451	7,503	8,073	7.6 %

出所: 農林水産省

# タイ向け農林水産物・食品の輸出額及び品目別内訳

- 平成29年のタイ向け農林水産物・食品の輸出額(速報値)は、391億円(世界第7位、対前年比+18.7%)。
- 上位品目は、豚の皮、かつお・まぐろ類、さば。

(億円)



※ カッコ内は全体に占める割合

## タイ向け農林水産物・食品輸出上位10品目

	2012年 平成24年	2013年 平成25年	2014年 平成26年	2015年 平成27年	2016年 平成28年	2017年※ 平成29年
1	かつお・まぐろ類 77億円	かつお・まぐろ類 97億円	かつお・まぐろ類 93億円	かつお・まぐろ類 74億円	豚の皮 61億円	豚の皮 80億円
2	豚の皮 23億円	豚の皮 37億円	豚の皮 59億円	さば 46億円	かつお・まぐろ類 39億円	かつお・まぐろ類 66億円
3	さば 21億円	いわし 34億円	さば 27億円	豚の皮 43億円	さば 33億円	さば 27億円
4	さけ・ます 15億円	さば 26億円	ソース混合調味料 13億円	ソース混合調味料 15億円	ソース混合調味料 14億円	いわし 18億円
5	ソース混合調味料 12億円	さけ・ます 14億円	さけ・ます 13億円	さけ・ます 13億円	さけ・ます 13億円	ソース混合調味料 15億円
6	いわし 11億円	ソース混合調味料 12億円	牛・馬の皮 9億円	いわし 11億円	いわし 11億円	さけ・ます 13億円
7	いか 7億円	牛・馬の皮 9億円	真珠(天然・養殖) 7億円	牛・馬の皮 10億円	牛肉 8億円	牛肉 10億円
8	牛・馬の皮 6億円	いか 8億円	いか 7億円	牛肉 7億円	ホタテ貝 7億円	牛・馬の皮 7億円
9	菓子(米菓を除く) 6億円	真珠(天然・養殖) 6億円	小麦粉 5億円	いか 6億円	牛・馬の皮 6億円	アルコール飲料 6億円
10	小麦粉 4億円	小麦粉 5億円	アルコール飲料 4億円	真珠(天然・養殖) 6億円	アルコール飲料 5億円	配合調製飼料 6億円

※速報値

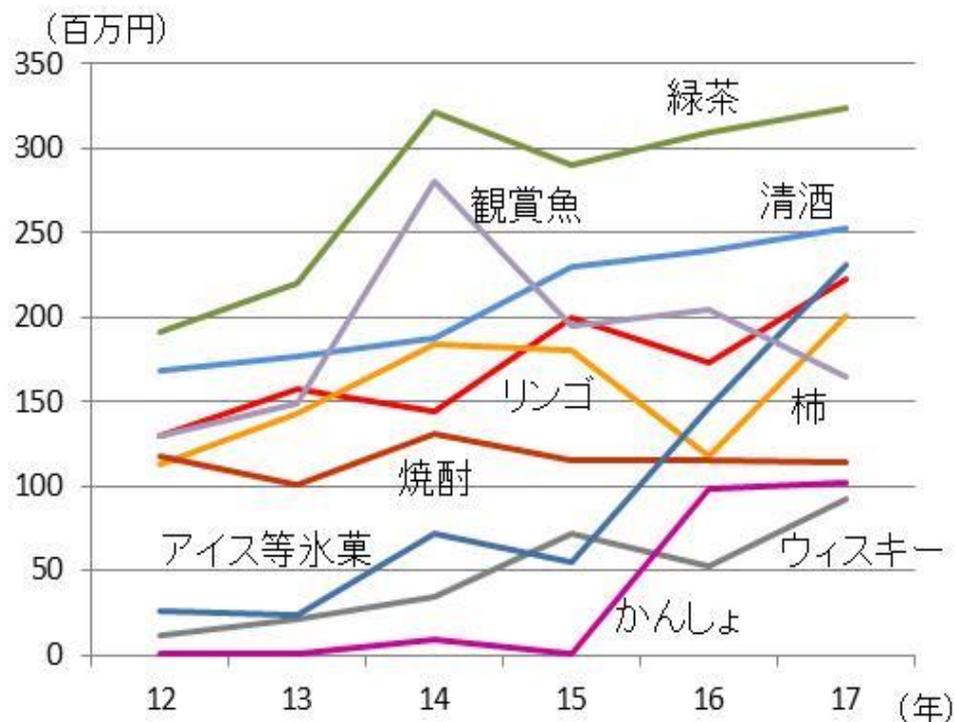
ソース混合調味料・・・ソース、たれ、ドレッシング、カレー調製品等の調味料

資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

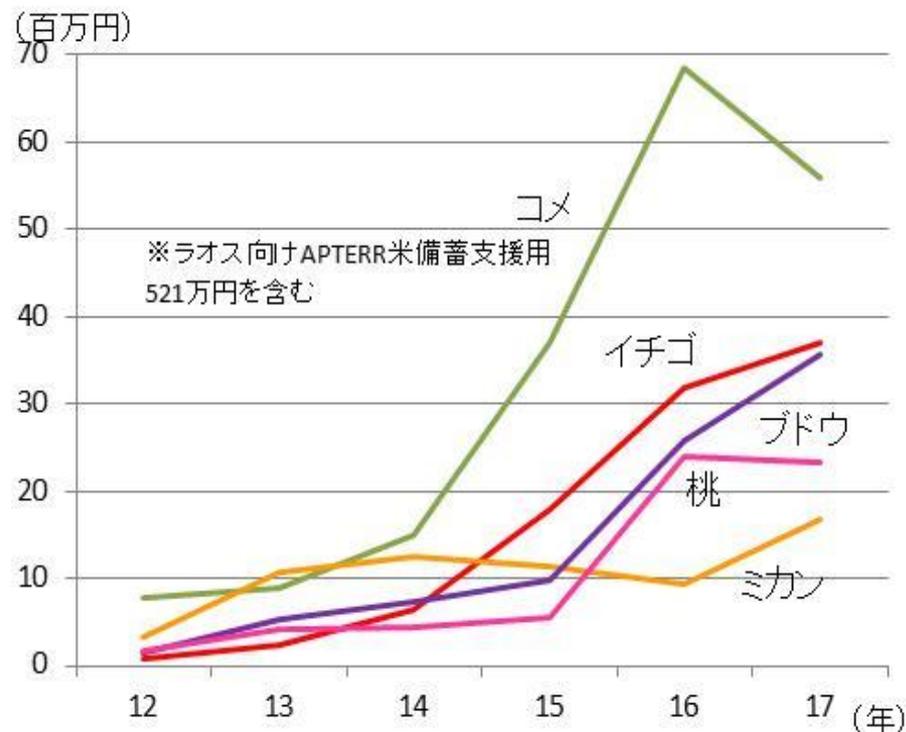
# タイ向け農林水産物・食品の輸出額及び品目別内訳

- 緑茶は輸入割当取得が困難な中で堅調に増加。
- アルコールについては、清酒は増加傾向、焼酎は横ばいの中、ウイスキーが増加傾向。
- 果実は、リンゴ、柿の供給も回復し、堅調に増加。
- 観賞魚等の非食品も今後注目。

## 日本からタイへの農産品・食品輸出額①



## 日本からタイへの農産品・食品輸出額②



出所：財務省「貿易統計」を元にジェトロ・バンコク事務所作成

## 一世帯当たり所得層の分布(2015年)

所得層	月当たり所得	全国平均	バンコク首都圏	中央部	北部	東北部	南部
低所得層	1万バーツ以下	20.9	5.9	17.9	32.2	29.6	18.6
ローワーミドル	10,001～30,000バーツ	52.4	47.1	54.8	53.2	52.8	54.8
	30,001～50,000バーツ	15.6	23.6	17.9	9.8	10.9	15.5
アッパーミドル	50,001～100,000バーツ	8.9	17.8	8.1	3.9	5.3	8.9
富裕層	100,001バーツ以上	2.3	5.7	1.5	0.9	1.4	2.0
	合計(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100

出所:タイ国情報通信技術省の統計を元にジェトロ・バンコク事務所作成

備考:バンコク都市圏=バンコク都、ノンタブリー県、パトゥムタニー県、サムットプラカーン県

合計(%)はラウンドにより必ずしも100%にならない

# バンコクの消費者は外食・中食に多く支出

○一世帯当たり平均家計支出(2015年)

(単位:バーツ)

支出項目	全国	バンコク 首都圏	中央部	北部	東北部	南部
食品飲料	6,900	8,477	6,880	5,445	6,444	7,100
自宅調理	3,988	3,524	3,822	3,768	4,496	4,343
調理済み料理	2,597	4,605	2,656	1,433	1,712	2,485
中食	1,364	2,068	1,394	845	1,109	1,350
外食	1,234	2,537	1,262	589	603	1,135

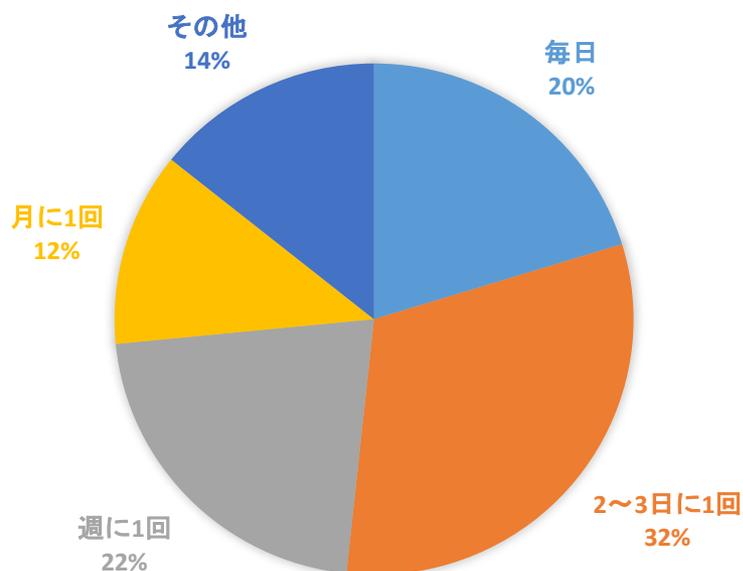
出所:タイ国情報通信技術省

備考: 食品飲料にはアルコール飲料は含まない

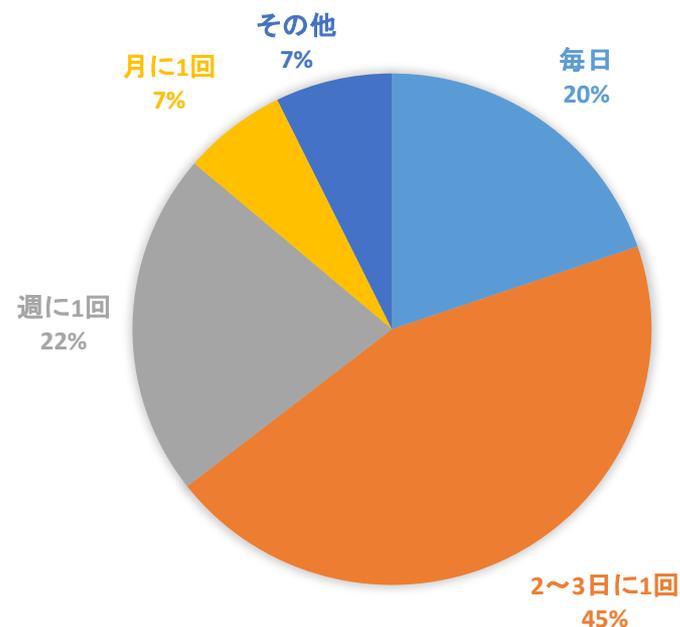
バンコク都市圏=バンコク都、ノンタブリー県、パトゥムタニー県、サムットプラカーン県

# タイ人の食生活に関する調査結果〈外食・中食〉

## 外食(夕食)の頻度



## 中食の頻度



出所：ジェトロ「タイにおける食のマーケット調査」、調査実施：2012年2月  
アンケート対象はバンコク在住の400人(20歳代、30歳代、40歳代、50歳代の男女各50人)

## 日本料理がタイ人に好まれる理由

### Q.一番好きな外国料理は？

日本料理	66.6%
中華料理	12.8%
韓国料理	6.8%
イタリア料理	2.0%
アメリカ料理	3.4%
フランス料理	2.6%
ベトナム料理	2.4%

### Q.日本食を好きな理由

味の良さ	37.1%
健康に配慮	26.0%
洗練されている・高級感	12.6%
流行している	6.4%
その国が好き	5.7%
安全性が高いから	4.4%
経済的・リーズナブルな価格	2.0%

出所：ジェトロ「日本食品に対する海外消費者アンケート調査-バンコク編-」、調査期間：2013年12月

# タイ人富裕層

## 【概要】

- 月収は10万バーツ以上
- 華僑系が多い
- バンコクは富裕層の割合が高い。地方にも点在

## 【購買力】

- 高価な日本食を買うことができる。中でもとびぬけて所得が高い超富裕層は金に糸目を付けない。

## 【自宅調理】

- 家政婦がいる家庭が多い
- 生活に余裕があり、調理学校で料理を勉強し調理を楽しむ人も増えている

## 【日本食に対する嗜好】

- 複数回、訪日し本物の日本食を食べているため味付けなどの嗜好は日本人に近い。
- 一般的な日本人よりも詳しい知識を持った「日本食マニア」もいる。

## 【訪日経験】

- 何度も訪日している
- 2014年の観光ビザ緩和により日本観光がブーム

## 【外食の場所】

- 食べたいものを食べる。
- おおよその昼食代は200～1,000バーツ

## 【日本食レストラン】

- 高級店
- 日本人が集まる店を好む

## 【食材を買う場所】

- Gourmet Market、Central Food Hall、Isetan、UFM Fuji Superなど
- オートコー市場など高級食材を扱う市場も利用

## 【健康志向】

- 健康に対する意識が高い。有機野菜、サプリメントも購入する

## 【食に関する情報源】

- テレビ・雑誌などタイ語メディア、口コミ、SNS

出所：ジェトロ・バンコク事務所作成

# 在タイ邦人

## 【概要】

- 在タイ日本大使館に在留届を出しているのは70,337人
- バンコク、特にスクンビット通りBTSpronpon、トンロー周辺に居住
- 最近ではシリチャ地区で居住する人も多い
- バンコク日本人学校は小学部2,194人、中学部は502人、合計2,696人
- シラチャー校は小学部362人、中学部80人、合計442人(2017年5月時点)

## 【購買力】

- 所得は月5万バーツ以上(外資規制により最低賃金が設定)

## 【自宅調理】

- メイドを雇うかサービスアパートに滞在するパターンが多い
- 日本人向けスーパーマーケットで食材を買い自宅調理

## 【日本食に対する嗜好】

- 日本と同じ味を求める
- 価格にはシビア。価格が安く、食味に違和感がなければタイ現地産が選ばれることが多い。タイ産日本米等
- 年に数回一時帰国するため、高価な日本産食品にはあまり手を出さない

## 【外食の場所】

- 普段使いにはスクンビット界隈の日本人経営店が選ばれることが多い。接待には高級店を使うことも。
- 日本人同士の飲み会では、居酒屋が人気
- 店の選択は多数ある日本語フリーペーパー、タイに住む日本人のブログなどが情報源

## 【食材を買う場所】

- 日本人を対象としたスーパーマーケット、UFM Fuji Super、Isetan、日本人居住区のCentral Food Hall、Gourmet Market、Tops Market、Max Value等

## 【食に関する情報源】

- 日本語フリーペーパー、SNS、口コミ

出所：ジェトロ・バンコク事務所作成

# タイ人中間所得層

## 【購買力】

- 月収はローワーミドルは10,001～50,000バーツ
- アッパーミドルは50,001～100,000バーツ
- 一般的な大卒初任給は約1万5,000バーツ/月

## 【自宅調理】

- バンコクで生活する中間所得層はキッチンが付いていないアパートに住んでいる人が多く、自炊をする人は少ない
- 共働きが多く、屋台などで安くで中食が買えるため 外食・中食中心の食生活
- 地方都市では自炊をする人も多い

## 【日本食に対する嗜好】

- 甘辛酸というはっきりした味を好む
- 辛さを増す、塩味を押さえるなどローカライズが必要

## 【訪日経験】

- 2014年の観光ビザ緩和により日本観光がブーム
- LCCの普及により中間所得層も日本に観光に訪れている

## 【外食の場所】

- 普段食事を取る屋台、食堂での食費は50～70バーツ

## 【日本食レストラン】

- Fuji、Oishi、Zen、Yayoiなど普及型日本食レストラン
- 八番ラーメン、CoCo壱番屋、かつや、てんやなど低価格帯の専門店

## 【食材を買う場所】

- Tesco Lotus、Big Cなどハイパーマーケット
- 地方では空調がついていないローカル生鮮市場も多い

## 【健康志向】

- 健康に対する意識はまだ高くないが、最近では健康・美容のために砂糖を控える人が増えてきた

## 【食に関する情報源】

- テレビ・雑誌などタイ語メディア、SNS

出所：ジェトロ・バンコク事務所作成

## タイにおける日本食レストラン数の推移

- ・今年度の日本食レストラン数は増加したものの、増加率は鈍化
- ・（対2016年度比） バンコク0.8%減、 地方7.8%増、 合計2.2%増

	バンコク	地方	全国計	純増数(増加率)
2007年3月(2006年度)	555	190	745	—
2008年2月(2007年度)	625	215	840	95(12.8%)
2009年3月(2008年度)	729	355	1,084	244(29.0%)
2010年2月(2009年度)	913	394	1,307	223(21.5%)
2012年6月(2012年度)	1,128	548	1,676	369(28.2%)
2013年4月(2013年度)	1,241	565	1,806	130(7.8%)
2014年6月(2014年度)	1,553	721	2,274	468(25.9%)
2015年6月(2015年度)	1,728	891	2,619	345(15.2%)
2016年7月(2016年度)	1,753	960	2,713	94(3.6%)
<b>2017年7月(2017年度)</b>	<b>1,739</b> (新335 退349)	<b>1,035</b> (新169 退94)	<b>2,774</b> (新504 退443)	<b>61(2.2%)</b>

出所: ジェトロ・バンコク事務所による調査

## 日本食レストランの食材調達

店舗分類	店舗例	アレンジ	食材調達方法
高級店(寿司、刺身)	葵、寿司築地、鮨忠、日本亭、天翠、本物寿司、等	アレンジは少ない 一部タイ人富裕層の嗜好にアレンジ	高級生鮮食材は日本から空輸
普及型日本食レストラン	Oishi、Fuji Restaurant、やよい軒、ZEN、等	タイ人中間所得層の嗜好にアレンジ	コスト重視 大部分をタイ国内で調達
専門店(ラーメン、焼肉、カレー、トンカツ、丼ぶり等)	銀座堂、CoCo壱番屋、新宿さぼてん、八番ラーメン、ラーメン亭、山小屋、焼肉炭、等	タイ人中間所得層の嗜好にアレンジ	大部分をタイ国内で調達 味の決め手となるタレなど調味料は日本産を使うことも

出所：ジェトロ・バンコク事務所作成

# 高級日本食料理店



写真：ジェトロ・バンコク事務所撮影

# 普及日本食チェーン



写真：ジェトロ・バンコク事務所撮影

# メニューを特化した専門店



写真：ジェトロ・バンコク事務所撮影

# タイ地方における日本食レストラン

## 料理（メニュー、調理方法、価格等）

- ★ フュージョンメニューを含めて多様なメニューを提供（寿司ロールなど）
- ★ 現地消費者の好みに合わせて味付けを調整（メイン顧客＝現地のタイ人）
- ★ 調理人はバンコクで修行を積んだタイ人板前等
- ★ 価格帯は普及型日本食レストランと同等（例：セットメニュー約200 THB、サーモン刺身250 THB）



## 食材

- ★ ほとんどが現地で調達
- ★ 一部、日本および海外産を使用



## 店構え、内装

- ★ 店名、店構え、内装は日本をアピールしたものが多く



出所：ジェトロ・バンコク事務所作成

# (参考)タイローカル飲食店

屋台、フードコート、食堂など。中間所得層および低所得層の消費者が日常的に利用している。**1食あたり50～70バーツ。**



写真：ジェトロ・バンコク事務所撮影

## 小売店における日本産食品の品揃え

店舗分類	例	品揃え	主な客層
日系百貨店、高級スーパーマーケット	フジスーパー、伊勢丹、Max Value等	日本のスーパーに劣らない品揃え	タイ人富裕層、在タイ邦人
現地系百貨店、高級スーパーマーケット	サイアムパラゴン、エンポリアム、セントラル、Villa Market等	豊富な品揃え	タイ人富裕層、他国の観光客、在タイ邦人
ハイパーマーケット	Big C、Tesco Lotus等	基本的な日本食材、調味料など	タイ人中間所得層
コンビニ	セブンイレブン、Max Value Tanjai、ファミリーマート等	日本産食品は菓子など限定的	全所得層
ウェットマーケット	クロントウイ市場、タラートタイ市場、オートコー市場等	日本産食品は確認出来ず	タイ人中間、低所得層 一部の高級市場ではタイ人富裕層も

出所：ジェトロ・バンコク事務所作成

# 主要なデパート、スーパーの位置



- ①サイヤムパラゴン
- ②セントラルワールド
- ③伊勢丹
- ④セントラルチッドロム
- ⑤エンポリアム
- ⑥エムクォーティエ
- ⑦フジスーパー1号店
- ⑧フジスーパー2号店
- ⑨フジスーパー3号店
- ⑩フジスーパー4号店

出所: Google Mapを基にジェトロ・バンコク事務所作成

# 日本産食品の販売を担う日系飲食料品小売店



## フジスーパー

出店年：1985年

店舗数：4店舗

日本人駐在員とタイ中間層・富裕層を対象に、通常消費される日本食品を販売、日本食品のシェアはかなり高い。



## 伊勢丹

開業年：1992年

店舗数：1店舗

日本人の他、タイ人富裕層を対象に、日常消費される日本食品を販売。定期的にプレミアム商品も含む物産展を開催。

写真： ジェトロ・バンコク事務所撮影 出所： ウェブサイトおよびヒアリング情報を元にジェトロ・バンコク事務所作成

# 高級デパート



セントラル・グループ

セントラル・デパート

資本：タイ系

企業グループ：セントラル



トップス・スーパーマーケット

企業グループ：セントラル

業態：CENTRAL FOOD HALL、Tops Super、  
Tops Market、Tops Daily等

セントラル・デパートの全ての店舗にスーパーマーケットとしてトップスが入店している。デパートとは別に商業施設などに出店している個別店舗もある。

写真： ジェトロ・バンコク事務所撮影 出所： ウェブサイトおよびヒアリング情報を元にジェトロ・バンコク事務所作成

# 高級デパート



ザ・モール・グループ

資本：タイ系

百貨店ザ・モールを7店舗運営する  
他、高級デパート、Siam Paragon  
(写真上)、Emporium (写真下)、  
EmQuartierをそれぞれ1店舗を運営  
している。



写真： ジェトロ・バンコク事務所撮影 出所： ウェブサイトおよびヒアリング情報を元にジェトロ・バンコク事務所作成

# 高級スーパーマーケット



ビラ・マーケット

資本：タイ系

企業グループ：Villa

欧米人が多く利用している。ワインの品揃えが豊富。日本食の取扱いはあまり多くない。

写真： ジェトロバンコク撮影 出所： ウェブサイトおよびヒアリング情報を元にジェトロバンコク作成

# ハイパーマーケット



テスコ・ロータス

店舗形態：Extra、Department Store、  
Market Value、Market、  
Express等



ビックC

店舗数：Big C、Big C Extra、  
Big C Market、Mini Big C等

写真： ジェトロバンコク撮影 出所： ウェブサイトおよびヒアリング情報を元にジェトロバンコク作成

# コンビニ



セブンイレブン

資本：タイ系

企業グループ：CPグループ

店舗数：1万店以上



ファミリーマート

資本：タイ系

企業グループ：セントラルグループ

店舗数：約1,100店舗

写真： ジェトロバンコク撮影 出所： ウェブサイトおよびヒアリング情報を元にジェトロバンコク作成

# タイ地方における日本食材供給

店舗名	業種	主要客	備考
セントラルグループのスーパー(トップス等)	小売	タイ人消費者 観光者 現地の外国人	生鮮食品における日本産の品揃えは限定的。加工食品は日本産も豊富。
リンピンスーパー(チェンマイ)	小売	タイ人消費者(アッパーミドル以上) 現地の外国人 観光者	生鮮、加工食品ともに豊富な品目の日本産商品を提供
マクロ	卸売	レストラン業者 タイ人消費者	タイ産日本食材がメイン。日本産食材は限定的。



写真: ジェトロ・バンコク事務所撮影 出所: ウェブサイトおよびヒアリング情報を元にジェトロ・バンコク事務所作成

## (参考)ローカル市場



写真： ジェトロ・バンコク事務所撮影

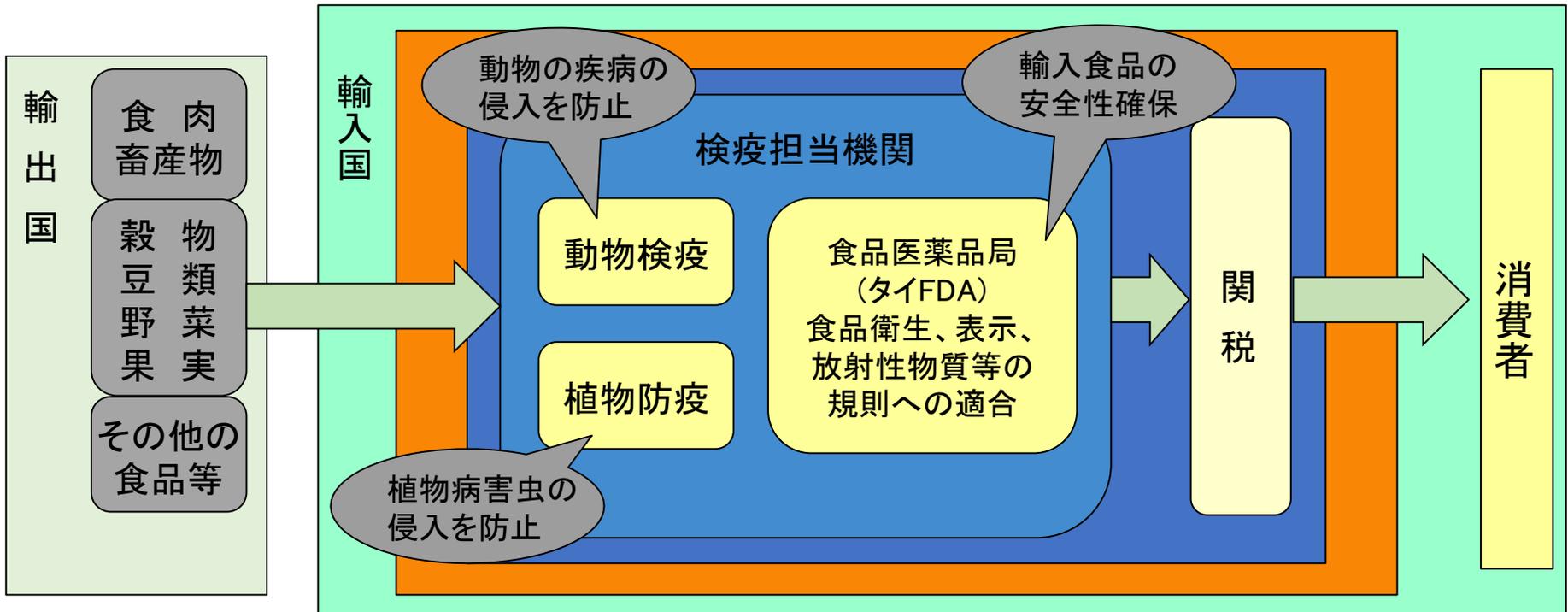
# タイ政府による食品輸入規制

# タイ政府による食品輸入規制の流れ

食品が輸入される際には、

- ①動植物検疫による家畜の疾病や植物の病害虫の侵入を阻止
- ②食品安全に関する基準への合致による食品の安全性の確保
- ③表示や商業的基準の確保

について、検査等により確認された後、消費者の元に届けられる。



出所： 関係機関へのヒアリング調査を元にジェトロ・バンコク事務所作成

## 食品安全性および食品輸入に関する主要タイ政府機関

機関名	役割
保健省 (Ministry of Public Health)	タイの食品安全管理において中心的な役割を果たす。タイ国民すべての人々の「健康」を維持管理する事を任務とし、食品医薬局、医科学局、衛生局等を内部部局に置く。
農業・協同組合省 (Ministry of Agriculture and Agricultural Cooperatives)	国内に安全な食品が提供されるよう、内部部局である農業局、農業普及局、畜産振興局、水産局、農産・食品規格基準局において農産物から加工品に及ぶ食品の安全管理を行う。
商務省 (Ministry of Commerce)	主にタイ国の経済・貿易に関わり、食品関連では輸出入の禁止・制限品目の指定を行う。

出所： JETRO調査レポート「2015年3月タイにおける食品輸入規制及び手続きガイドブック」

# 食品輸入に関する参考資料

タイにおける食品輸入規制  
及び手続等ガイドブック

2015年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）  
農林水産・食品部  
バンコク事務所

タイ向けの食品輸出について、主に食品輸入規制についてまとめたガイドブック。

- タイにおける食品カテゴリー、必要な書類
- 食品添加物等の規制
- 植物検疫、動物検疫など

URL:[https://www.jetro.go.jp/ext\\_images/\\_Reports/02/2015/af/thai20150331.pdf](https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2015/af/thai20150331.pdf)

## 加工食品の輸入時のGMP(適正製造規範)認証

- 「食品製造方法、製造用器具及び保存方法」(保健省告示No.193)に定める、57種類の食品を輸入する際は、製造国側におけるGMP(適正製造規範)認証をFDAへ提出する必要
- なお、**GMPについてはISO又はHACCPによる代替**を認めているが、日本の場合、保健所の発行する「**営業許可証**」でも**代替できる**とされている。
- 営業許可書の場合、翻訳文の翻訳証明が求められる他、**一部の業種では営業許可証が発行できない場合(お茶)や営業許可書の範囲が広すぎる(惣菜製造業、冷凍冷蔵業)場合、代替が難しいケースもある。**

### ○GMP等の認証取得が必要な主な食品

- ・ 乳児用食品
- ・ アイスクリーム
- ・ お茶
- ・ 油脂類
- ・ はちみつ
- ・ 畜肉製品
- ・ 冷凍食品
- ・ チョコレートなど 57品目

### ○営業許可の取得や代替が困難な例

- ・ お茶(営業許可が必要ない)
- ・ 惣菜製造業(食品が限定されない)
- ・ 冷凍冷蔵業(上記と同じ)
- ・ 魚介類販売業(製造業ではない)
- ・ 具体的な商品が明記できない場合



輸入許可が下りない可能性もあるので注意  
(ISO等の認証取得も要検討)

# 日タイ経済連携協定（JTEPA）の重要性

- 日本産食品の輸入に際しては、タイ国内での価格競争力を有するため、より**低関税での輸入を行うことが重要**
- 現在、日本からの農産物・食品の輸出に際しては、**日タイ経済連携協定（JTEPA）**の適用を受けることで低関税又は無税での輸入が可能
- JTEPAの適用には、日本国内の商工会議所が発行する「**原産地証明**」が必要となるが、原料の一部に日本産以外のものを利用する場合には事前に適用の可否を確認することが必要
- なお、**茶や米など関税割当設定のある一部品目**については、事前に割当枠の取得が必要（割当外での輸入はJTEPA非適用）

## ○主な品目のJTEPA適用による関税率（2017年6月現在）

品目	米	牛肉	茶	野菜	果実 (桃)	菓子 (ケーキ)	日本酒
通常関税	52 %	50 %	90 %	40 %	40 %	40 %	60 %
JTEPA	<b>0 %</b>	0 %	<b>0 %</b>	0 %	0 %	0 %	0 %
関税割当	あり	—	あり	—	—	—	—

JTEPAが適用できない場合、小売価格に大きな差が生じる  
（一部輸入業者では、JTEPA適用を取引条件に設定することもあり）

出所： 関係機関へのヒアリング調査を元にジェトロ・バンコク事務所作成

# 品目別動向

# タイの農林水産業概要①

- タイの季節は、①雨季(6月～10月)、②乾期(11月～2月) ③暑季(3月～5月)
- 広大で比較的平坦な国土・農地と温暖な気候を活用し、農林水産物を生産
- 地域毎に、気候・土壌等の特性にあわせ、特色ある品目を生産

## I タイ北部

- ①山岳部・比較的冷涼な気候
- ②米、**日本米(短粒種)**、とうもろこし、**野菜、果実**
- ③冷凍野菜・加工野菜工場

## II タイ中央部

- ①チャオプラヤ川デルタ地域で肥沃な土地。アジア有数の稲作地帯。灌漑が整備。
- ②米(**二期作、長粒種**)、とうもろこし、さとうきび、キャッサバ、**畜産**(ブロイラー、卵、豚肉)、果実
- ③畜産物加工場、食品加工業

## III タイ東北部(イサーン地方)

- ①痩せた土地。台地状で水不足。灌漑施設が少なく天水依存。塩害。開発が遅れる。低所得。
- ②**ジャスミン米(香米)**、もち米、とうもろこし、**キャッサバ、サトウキビ**
- ③製糖工場、キャッサバ工場

## IV タイ南部

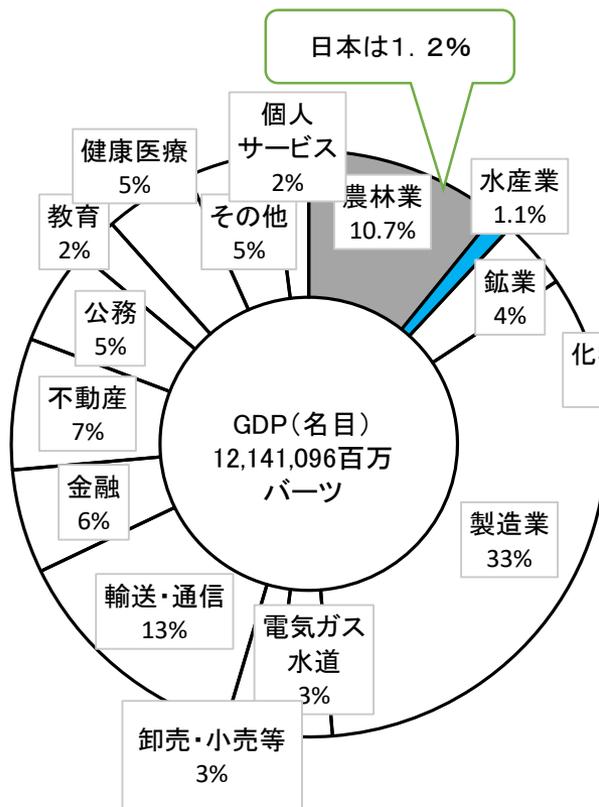
- ①アンダマン海とタイ湾に囲まれた山岳部
- ②天然ゴム、アブラヤシ、パイナップル、エビ養殖
- ③ツナ工場

出所： 関係機関へのヒアリング調査を元にジェトロ・バンコク事務所作成

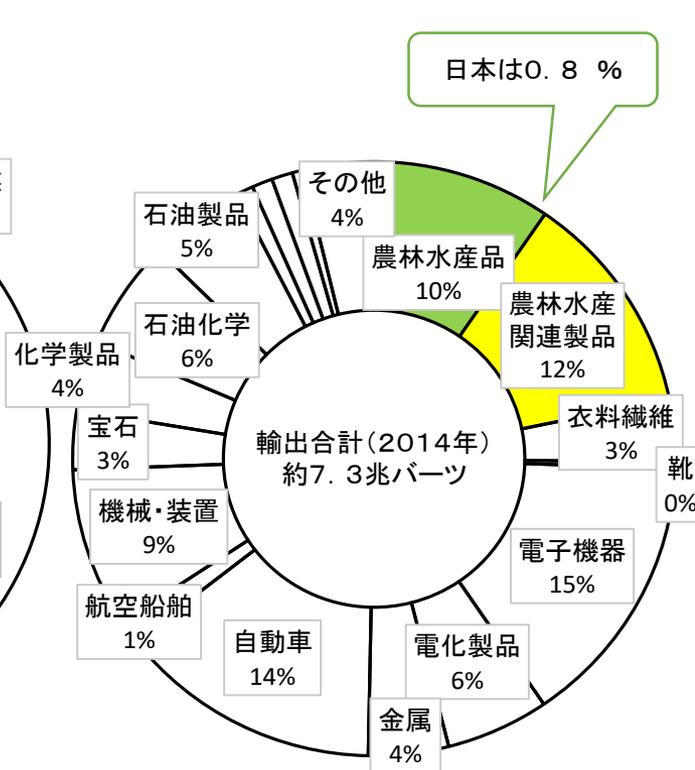
# 1 タイの農林水産業概要②

○産業別GDP構成比では農林漁業は12%にすぎないが、輸出の2割程度、就業者別で全体の4割を占め、農林漁業は依然として、タイにとって最も重要な産業の一つ。

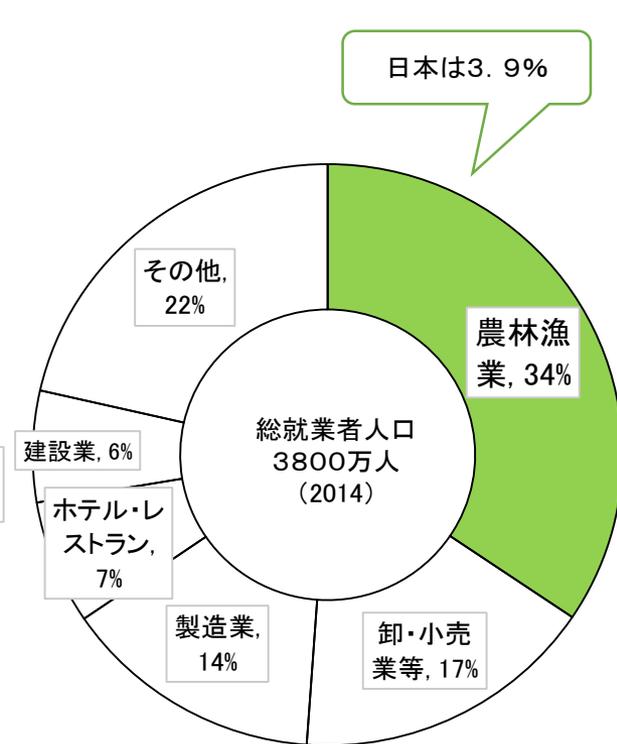
○産業別GDP構成比



○輸出構成比



○産業別就業者構成比(2014)



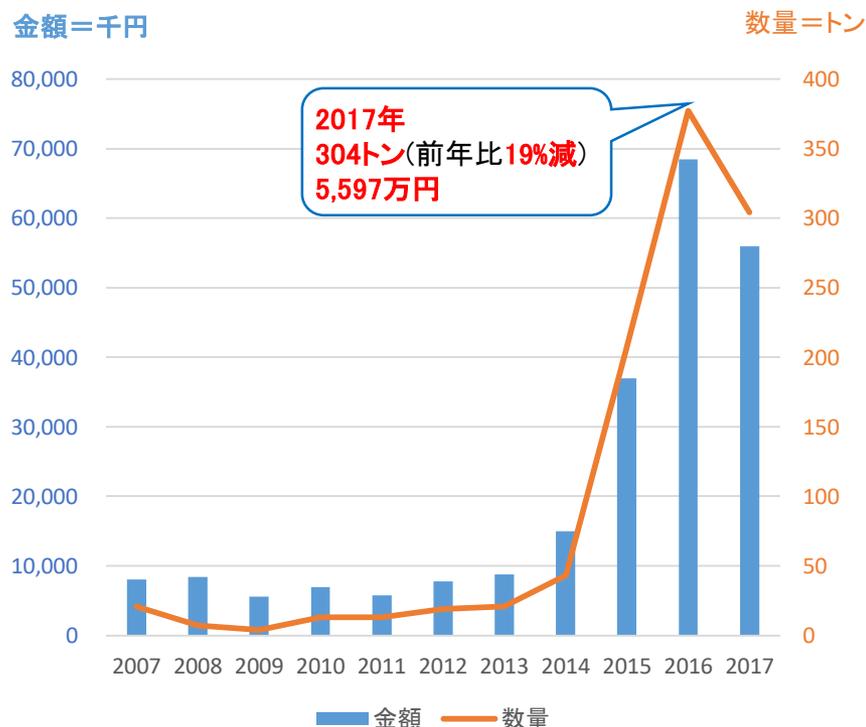
資料: 国家経済社会開発委員会 (NESDB) 資料より作成

資料: タイ中央銀行データベースから作成  
農林水産関連製品には、食品のほか、ゴム製品、  
繊維製品等も含む

資料: 労働力調査より作成

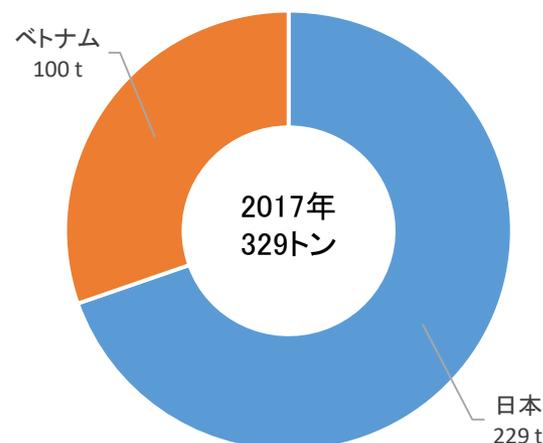
- 2017年の日本からタイへの米輸出は前年から約19%減の304トン。
- タイ現地産、他国産(オーストラリア産、ベトナム産)日本米と競合。
- 米はタイでは関税割当品目となっており、事前に商務省外国貿易局から輸入許可を取ることが必要。

## ○日本産米のタイ向け輸出



出所: 日本財務省: 貿易統計  
HSコード: 1006.30-000

## ○タイの日本米輸入



出所: タイ関税局  
HSコード: 1006.3099.015

## ○日本米の対タイ輸出に係る関税

関税割当内: 30% 関税割当外: 52%  
JTEPA適用時(要申請): 2017年4月以降 0%

出所: JTEPA(日タイ経済連携協定)ANNEX1  
Section2”schedule of Thailand” HSコード1006.30  
タイ関税局 HSコード: 1006.3099

# タイにおける日本米(ジャポニカ米)の生産・流通状況

- タイ産日本米は、主にタイ北部地域で生産。日本食の普及に伴い需要が大きく増加。
- 2011年以降、コメ担保融資制度導入の影響で、日本米からタイ米へ転換し、生産が減少。  
一部業者は、豪州等から日本米を輸入

## ○タイ産日本米生産量 約6万㌧トン

(2013年。農業省米局調べ)

- 生産地域:タイ北部(チェンライ・チェンマイ近郊)
- 品種:あきたこまち、ササニシキ
- 契約形態:委託生産
- 作業体系

- ・2期作(雨期作、乾期作(要灌漑))
- ・直まきが多いが、移植もあり。

## ○店頭販売価格の例(バンコク都内日系スーパー)

- ・タイ産長粒種 約 35B/kg
- ・タイ産日本米 約 75B/kg
- ・日本産日本米(あきたこまち) 約 155B/kg

## <最近の動き>

- 2011年の米担保融資制度導入により、  
日本米生産が減少

- 農家はタイ米(特に香り米)に生産転換
- 一部スーパーでは、タイ産日本米の品切れ。
- 一部業者は、豪州から日本米を輸入。

- 担保融資制度終了等により日本米生産増加

出所: 在タイ日本国大使館

## <タイにおける日本米栽培・研究の歴史>

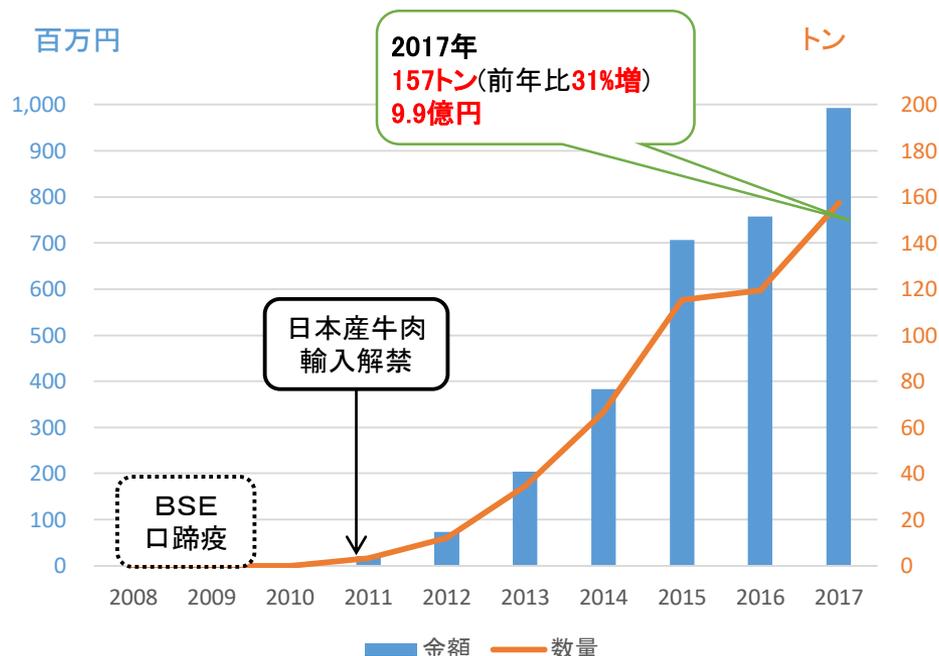
- 1960年代、米研究所にて日本米栽培研究始まる
- 1980年代、日本米栽培始まる。
- 1992年タイ農業省米局が、あきたこまち、ササニシキの2品種を認定し、日本米栽培を奨励。  
(コシヒカリの育成はうまくいかず)
- 2000年代以降、日本食レストランが急速に増加。  
対応して、日本米生産も増加。



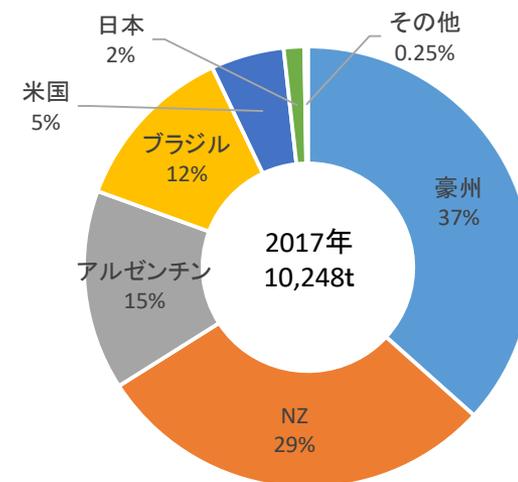
## タイにおける牛肉輸入・流通・消費事情①

- 日本産牛肉の輸入解禁(2011年4月)以降、**タイ向日本産牛肉の輸出は急拡大**(従来、我が国での口蹄疫発生により輸入禁止)。主に高級焼肉・しゃぶしゃぶ店、日本食レストラン等で提供。
- 主に豪州、NZから輸入。**日本は第6位の輸入先国でシェア(2%)は低い**が、**高級牛肉として「和牛:WAGYU」ブランドの認知度は高い**。
- 高価格の**日本産牛肉は豪州産(オージーWAGYU、オージービーフ)と競合**。

### ○日本産牛肉のタイ向輸出



### ○タイの牛肉輸入量



出所: タイ財務省通関統計

財務省: 貿易統計  
 冷凍(020230)・冷蔵(020130) の合計  
 括弧内はHSコード

## タイにおける牛肉輸入・流通・消費事情②

- タイ向輸出には、と畜場の認定等、所要の条件・手続きが必要。
- JTEPA(日タイ経済連携協定)の申請・適用により、関税負担は大幅減少(50%→0%。2014年4月以降)
- タイでは伝統的に牛肉消費は一般的でなかった(宗教的理由等)が、近年、牛肉消費も増加。

### <タイ向け日本産牛肉の輸出条件の概要>

- と畜場の主な条件
  - ・都道府県等による選定手続きを経て、厚労省による確認後、タイ政府に通知されていること 等
  - 【39施設が対タイ輸出食肉取扱施設として認定済(2017年7月現在)】
- 動物検疫所での**輸出検疫** 等

<農水省・厚労省発表資料>

### ○タイの牛肉消費

- ・肉類の中では鶏肉(11.6kg/人・年) 豚肉(11.2kg)の消費が多く、**牛肉消費(2.9kg)は比較的少ない**。
- ・**一部の住民**は、宗教的理由(観音信仰の戒律)により、**牛肉を食べない**。
- ・タイ人富裕層(華僑系が多い)は**サシの入った和牛を好む**。焼肉・鉄板焼き、しゃぶしゃぶなどの牛肉料理を提供するレストランも人気。



### ○日本産牛肉の対タイ輸出に係る関税

WTO税率	50 %
JTEPA適用時(要申請)	
2007年JTEPA発効以降	段階的削減
<b>2014年4月以降</b>	<b>0%</b>

JTEPA(日タイ経済連携協定)ANNEX1  
Section2”schedule of Thailand”  
HSコード0201、0202

### ○牛肉小売価格の例

牛肉産地・部位	価格(B/kg)	比率
日本産牛肉 サーロイン	9,950B	1
日本産和牛 肩ロース	9,900B	—
豪州産WAGYU サーロイン	3,790B	0.4
タイ産牛肉(タイフレンチ)ヒレ	1,590B	0.15

JETRO「バンコク都内スーパーマーケット市場調査(2013年4月)」より

# タイへの青果物輸出

- 日本産の青果物は食味の良さと品質の高さが評価されており、タイの富裕層によって購入されている。
- 従来より日本産の果物としては、柿とリンゴの輸入が多く、多くの店頭でこれらの果物を見かける。
- 特に最近では、高級果物として日本産のイチゴやブドウ等も高級スーパーなどで見かける。
- 価格が安い中国産、韓国産、オーストラリア産、米国産等と競合している。

## ○日本産青果物のタイ向け輸出

品目	単位	2012	2013	2014	2015	2016	2017
リンゴ(生鮮)	千円	129,688	157,328	144,040	200,000	173,822	222,543
	KG	249,579	282,160	247,074	329,000	267,134	493,395
柿(生鮮)	千円	112,437	142,993	183,977	180,410	118,239	201,504
	KG	303,815	306,760	373,250	358,562	228,447	367,338
なし(生鮮)	千円	6,369	14,789	10,954	7,140	9,462	15,303
	KG	11,982	25,062	16,566	11,626	16,035	29,280
うんしゅうみかん(生鮮・乾燥)	千円	3,207	10,701	12,379	11,282	9,357	14,173
	KG	6,330	20,800	20,260	16,896	11,624	20,146
桃(生鮮)	千円	1,589	4,070	4,410	5,440	24,005	23,249
	KG	1,590	2,953	3,601	5,324	29,111	32,840
ぶどう(生鮮)	千円	1,473	5,254	7,325	9,806	25,800	35,554
	KG	949	2,595	3,644	4,109	10,298	14,369
いちご(生鮮)	千円	829	2,386	6,455	17,921	31,713	36,988
	KG	217	874	2,403	6,254	11,469	13,643

出所：財務省 貿易統計

## タイにおける果物輸入・流通・消費事情

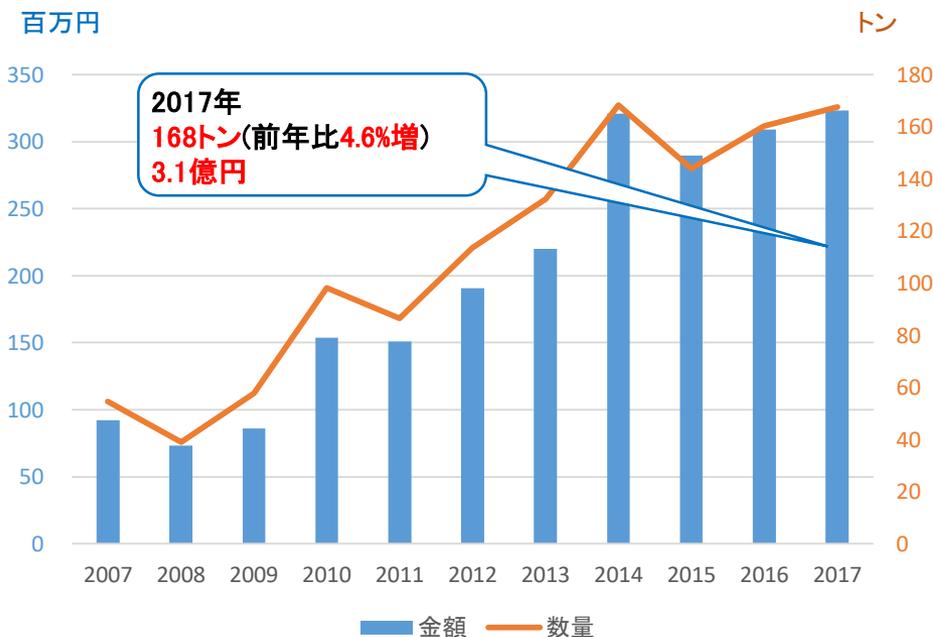
- タイ向輸出として**日本産果物は人気**があるが、一方で**タイ産、中国や韓国産などの第三国産**のものも店頭で並ぶなど、競争が**激しい**。
- 特にバンコク都内の消費者は自宅調理をしない人が多いが、果物であればそのまま食べられるので**広い消費者層に好まれる**。
- ミカンは検疫上の問題から、一部の産地の物しか輸入が認められていない。



写真： ジェトロ・バンコク事務所撮影  
出所： ウェブサイトおよびヒアリング情報を  
元にジェトロ・バンコク事務所作成

- タイでは2004年頃から緑茶飲料が人気、現在コンビニでも緑茶飲料が大きな売場面積を占める。ブーム当初は加糖された甘みの強いものしかなかったが、最近は健康志向の高まりにつれ微糖および無糖のものが増加。
- 販売先は主に緑茶飲料工場および日本食レストラン。
- 緑茶はタイでは関税割当品目となっており、事前に商務省外国貿易局から輸入許可を取ることが必要。

## ○日本産緑茶のタイ向け輸出



出所: 財務省 貿易統計

## ○2017年タイの緑茶輸入

単位: 数量=トン、金額1,000バーツ、単価=バーツ/キロ

国名	数量	金額	単価
日本	166	85,460	514.93
中国	2,129	75,164	35.31
ミャンマー	1,009	18,362	18.19
ベトナム	93	9,222	99.31
スリランカ	7	6,793	969.29
その他	23	18,961	806.87
合計	3,428	213,961	62.42

出所: タイ関税局 貿易統計

## ○日本産緑茶のタイ向け輸出に係る関税

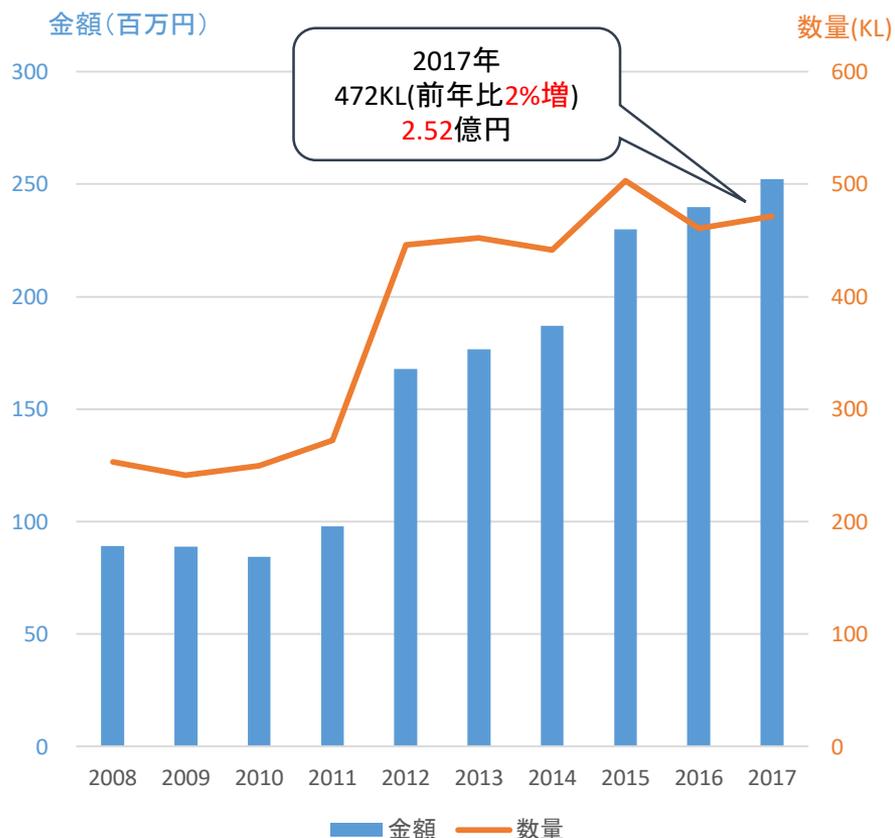
関税割当内: 30% 関税割当外: 90%  
 JTEPA適用時(要申請): 2017年4月以降0%

出所: JTEPA(日タイ経済連携協定)ANNEX1  
 Section2”schedule of Thailand” HSコード0902.10, 0902.20  
 タイ関税局 HSコード: 0902.10, 0902.20

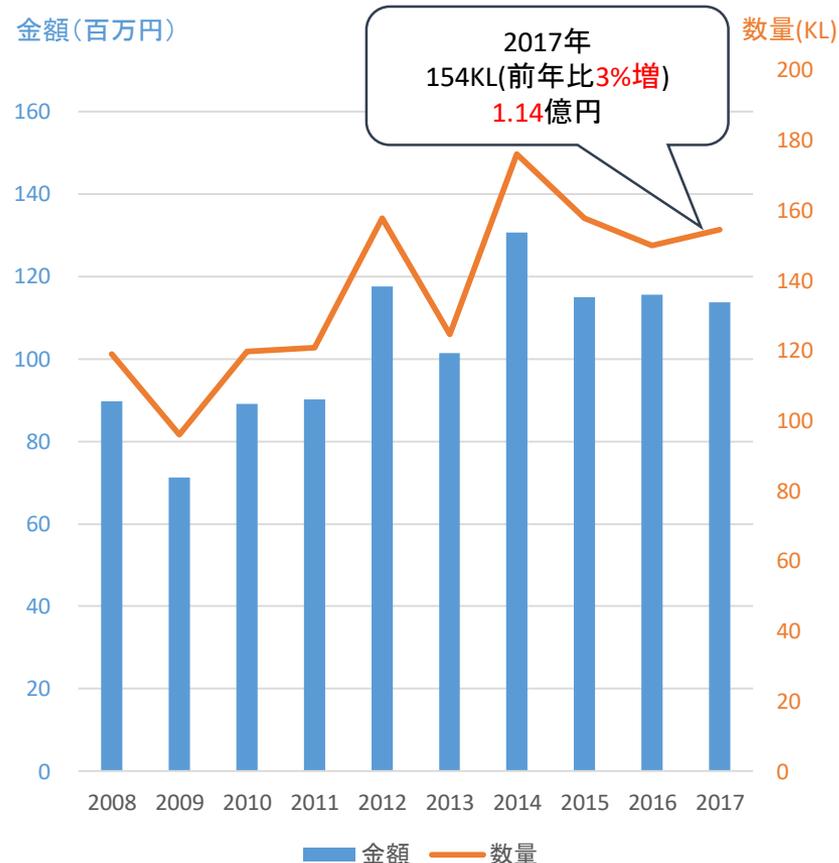
# タイにおける日本酒・焼酎の輸入・流通状況①

- 日本酒・焼酎は、従来は、日本人駐在員等が消費の中心であったが、最近は、日本食の普及、日本食レストランの増加に伴い、タイ人富裕層・中間層にも徐々に認知されてきている。

## ○タイ向け日本酒の輸出の推移



## ○タイ向け焼酎の輸出の推移



財務省:貿易統計 (HSコード 清酒 220600200 焼酎220890100)

## タイにおける日本酒・焼酎の輸入・流通状況②

- 飲酒に対して日本より厳格であり、各種規制が課せられている。
- 酒類にかかる諸税は非常に高いが、JTEPA(日タイ経済連携協定)の申請・適用により関税負担は大幅減少(清酒0%、焼酎・ワイン0%)

### ○酒類に対する嗜好・市場動向

- ・嗜好: 敬虔な仏教徒が多く、飲酒に対して日本よりも厳格。
- ・酒類消費は圧倒的にビールが多い(シンハービール、チャンビール、レオビール、ハイネケン等)。日系ではアサヒビール(タイ生産)、サッポロビール(ベトナム生産)、麒麟ビール(タイ生産)が進出。
- ・次に、スピリッツ類消費が多い(タイ産焼酎等)。最近では、バンコクを中心に、所得増加、食の洋風化・多様化に伴い、ウイスキー、ワイン、日本酒、焼酎、梅酒などの消費が増えてきている。ワイン専門店やワインをテーマとしたレストランも人気となっている。

### ○酒類の各種規制(概要)

- ・広告規制: 雑誌等の印刷物の広告に、酒類を写してはならない
- ・販売規制: 11時~14時、17時~24時以外の時間帯は、コンビニ・スーパー等の小売店での販売禁止(ホテル・レストラン等での提供は可能)、一部の祝日等で販売禁止
- ・輸入規制: **1銘柄1業者登録制**

出所: ウェブサイトおよびヒアリング情報を元にジェトロ・バンコク事務所作成

- 日本食レストラン増加に従い主食用日本産水産物の輸入も増加している。**空輸で輸入された日本産水産物を使っているレストランも多数。**
- タイ人が好む寿司ネタはトロ、サーモン、サバなど脂がのったもの。**淡泊な白身魚は寿司ネタとしてはあまり人気が無い。**

## ○日本産水産物のタイ向け輸出

品目	単位	2012	2013	2014	2015	2016	2017
かつお(冷凍)	百万円	3,723	5,928	4,664	2,390	673	2,912
	トン	23,927	31,592	30,967	15,758	4,411	13,965
びんながまぐろ(冷凍)	百万円	3,207	2,399	3,465	3,775	2,316	2,614
	トン	12,659	11,816	12,740	10,815	7,524	8,526
さば(冷凍)	百万円	2,021	2,588	2,713	4,608	3,330	2,736
	トン	25,991	24,468	26,084	53,680	43,207	32,269
さけ(冷凍)	百万円	1,459	1,304	1,195	1,144	1,273	1,136
	トン	5,627	5,518	4,194	3,364	3,895	2,573
いわし(冷凍)	百万円	1,101	3,422	418	1,091	1,083	1,787
	トン	18,026	46,771	5,432	14,147	15,138	26,311
さんま(冷凍)	百万円	261	311	136	124	139	226
	トン	3,006	3,915	1,101	780	487	1,463

出所：財務省 貿易統計

## タイにおける菓子類の輸入・流通状況

- 日本産の菓子は食味の良さと品質の高さが評価されており、在タイ邦人およびタイの富裕層によって購入されている。
- 価格が安いタイ現地産、中国産等と競合している。

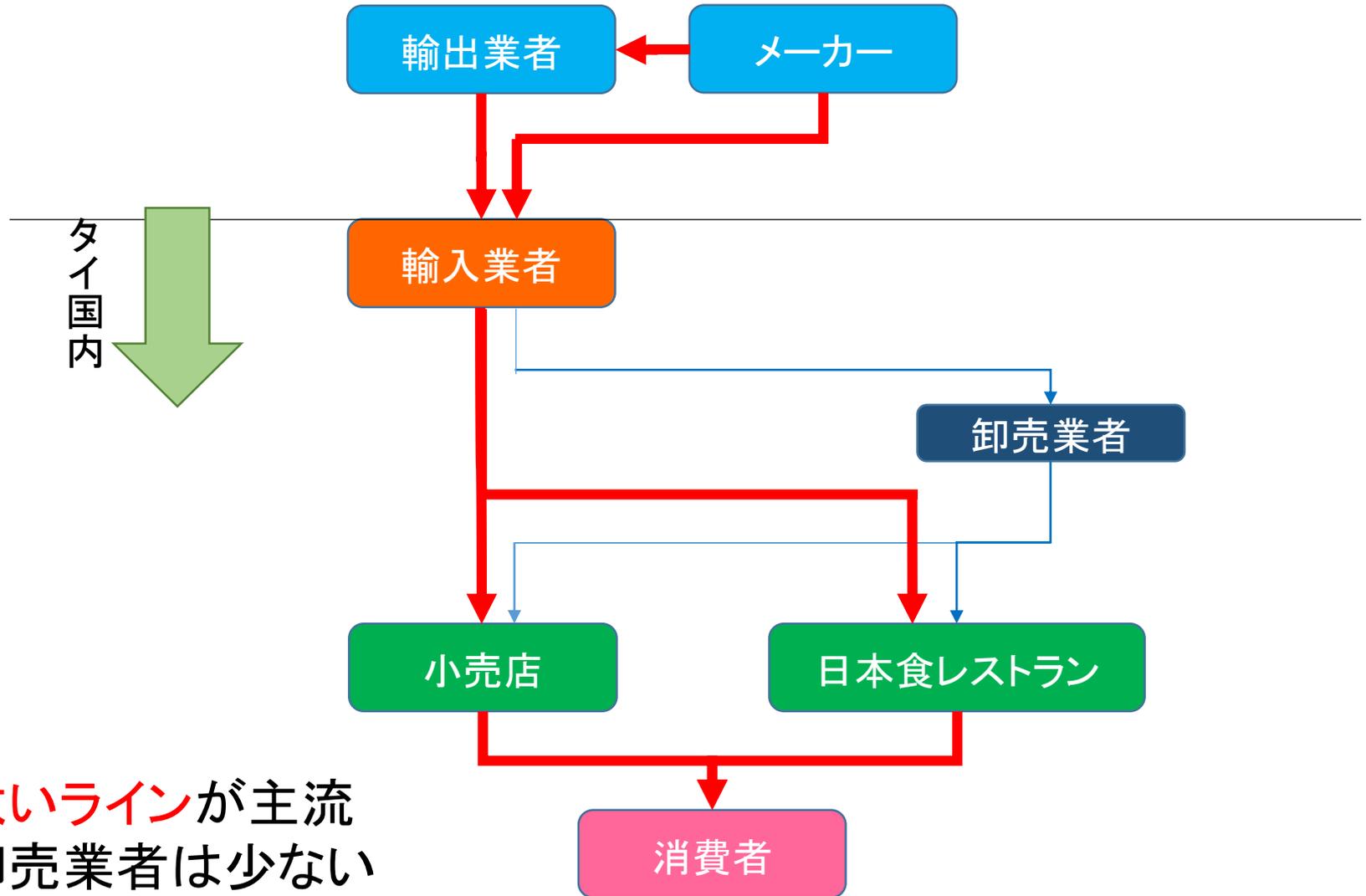
### ○日本産菓子類のタイ向け輸出

品目	単位	2012	2013	2014	2015	2016	2017
チョコレート菓子	千円	534,006	182,707	252,884	327,877	319,967	268,949
	KG	462,015	126,035	186,592	244,929	228,200	172,613
米菓(あられ・せんべい)	千円	46,951	63,159	50,643	68,374	52,788	56,588
	KG	34,156	41,435	34,800	45,278	37,405	40,305
アイスクリーム等氷菓	千円	26,417	24,338	72,274	55,274	146,373	231,101
	KG	50,294	43,338	170,299	128,103	356,940	487,911

出所：財務省 貿易統計

# 日本産食品を売り込むための 3つのポイント

# タイにおける日本産食品の流通



太いラインが主流  
卸売業者は少ない

出所： 関係者へのヒアリング情報を元にジェトロ・バンコク事務所作成

## ポイント① 輸入業者との提携

- タイ食品医薬品局に輸入許可申請は輸入業者が行う。
- タイの輸入業者の多くは、輸入許可申請、通関、倉庫での保管(常温、冷蔵、冷凍)、卸売、配送などの機能を持っている。
- 輸入業者は日系、タイ系、水産物専門、酒類専門など多種多様。



最適な輸入業者との提携が必要

## (参考) 日本産食品の輸入・物流等を担う主な日系輸入業者

社名	ウェブサイト	電話番号	備考
Asan Service Co., Ltd.	<a href="http://www.asanservice.co.th/">http://www.asanservice.co.th/</a>	+66-2-712-9790~3	酒類、調味料等
Bangkok Food System Co., Ltd.	<a href="http://www.bfs-info.com">http://www.bfs-info.com</a>	+66-2-231-2813~5	青果物、水産物
Daisho (Thailand) Co., Ltd.	<a href="http://www.daishothai.com/index.php">http://www.daishothai.com/index.php</a>	+66-2-744-1450~1	日本食全般
Jalux Asia Ltd.	<a href="http://www.asjalux.com/">http://www.asjalux.com/</a>	+66-2-631-1350~4	空輸に特化
Kobeya Shokuhin Kogyo Co., Ltd.		+66-2-683-0520~4	日本食全般
MRT Foods (Thailand) Co., Ltd.	<a href="http://www.mrt-japan.jp/">http://www.mrt-japan.jp/</a>	+66-2-634-2653	野菜、果実等
SCS Trading Co., Ltd.	<a href="https://www.facebook.com/scstrading/">https://www.facebook.com/scstrading/</a>	+66-2-530-2648	日本酒、焼酎等
Seishin Co., Ltd.		+66-2-714-0824	日本酒、焼酎等

注：一般的な情報であり、ジェトロが成約を保証するものではありません。

出所：各社ウェブサイトを元にジェトロ・バンコク事務所作成

## (参考) 日本産食品を扱うタイ系輸入業者

社名	ウェブサイト	電話番号	備考
Food Project (Siam) Co., Ltd.	<a href="http://www.foodproject.co.th">www.foodproject.co.th</a>	+66-2-770-8888	水産物、牛肉、調味料等
Foods Classic Co., Ltd.	<a href="http://www.foodsclassic.co.th">www.foodsclassic.co.th</a>	+66-2-672-7172	水産物、牛肉等
Gourmet One Food Service (Thailand) Co., Ltd.	<a href="http://www.gourmet-one.com">www.gourmet-one.com</a>	+66-2-403-3388	水産物、牛肉、調味料等
Jagota Brothers Trading Co., Ltd.	<a href="http://www.jagota.com">www.jagota.com</a>	+66-2-365-8200	水産物、牛肉等
JR F&B Co., Ltd.		+66-2-906-8899	加工食品、調味料等
Siam Treasure Group Co., Ltd.	<a href="http://www.siamtreasure.com">www.siamtreasure.com</a>	+66-2-540-4123~5	菓子、調味料、加工食品等
Sino-Pacific Trading (Thailand) Co., Ltd.	<a href="http://www.sino.co.th">www.sino.co.th</a>	+66-2-681-5081	菓子、調味料等
Tanawat Industrial Co., Ltd.	<a href="http://www.tanawat.co.th">www.tanawat.co.th</a>	+66-2-634-7575	日本酒、焼酎、菓子等

注：一般的な情報であり、ジェトロが成約を保証するものではありません。

出所：各社ウェブサイトをもとにジェトロ・バンコク事務所作成

## ポイント② 競合商品への対応

- ・日本産食材はタイ現地産、他国産と競合する。
- ・競合商品の価格と品質を把握する。
- ・食味、品質など競合商品との違いをアピール。

(参考) 食品別競合商品

牛肉	タイ産、オーストラリア産、米国産等
焼酎	タイ産、ベトナム産等
リンゴ	中国産、ニュージーランド産、アメリカ産等
醤油	タイ産、シンガポール産等
イチゴ	韓国産、オーストラリア産、タイ産

# タイ国産及び他国産の農産物販売状況

- タイ国内の北部地位(チェンマイ、チェンライ)地域は山岳地域のため、日本的な冷涼な気象条件である。
- このため、日本品種の野菜や果物と多く生産されており、これらの農産物は価格も安く、品質の一定程度を確保しているものもあり、輸入日本産品に対して強い競争力を保持している。
- また、他国産として、柿、桃、リンゴ、ナシ、イチゴなど、タイ国内で生産できない高級果実についても、他国産の輸入物が中間所得層の手の届く価格帯で売られており、日本産品とは品質・味以上に価格差が大きく訴求効果を失っているケースもある(日本産の半値～数分の1)。



中間層スーパーに並ぶ他国産イチゴ



タイ卸売市場に並ぶ他国産のナシ

写真： ジェトロ・バンコク事務所撮影 出所： ウェブサイトおよびヒアリング情報を元にジェトロ・バンコク事務所作成

## ポイント③ ターゲットの絞り込み

- 全ての消費者から支持を得ることは不可能
- 各消費者のニーズを把握し、ターゲットを絞り込んで売り込むべき

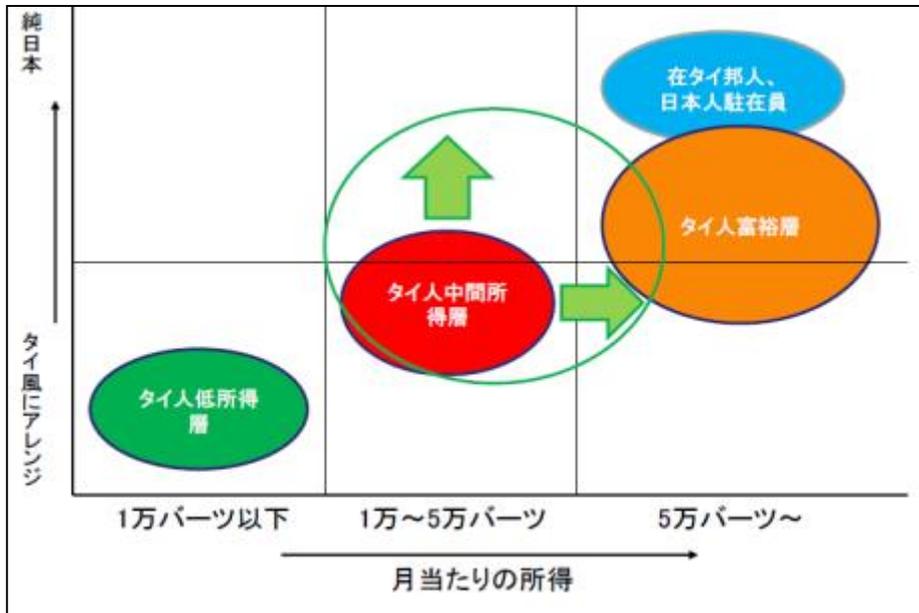
### (参考)日本食消費者のニーズ

	求める食材	包装、商品説明	マーケティング
富裕層	目新しいもの 本物	商品名は日本語、調理 方法などの情報が必要、 英語読解力○	ロコミ、フェイスブック
在タイ邦人	日々の生活に必要な 食材	日本語	ロコミ、フリーペーパー
中間所得層	高すぎないもの タイ料理に味が近い もの	英語は△、タイ語が必要	マスメディア

# ターゲットを絞り込んでの商品展開

- マーケットが求める商品売り込むことが重要。マーケティング活動、ローカライズ、商品開発が不可欠
- 特にターゲットとなる消費者毎(タイ人富裕層、中間所得層、日本人)に嗜好や購買力、行動傾向などについて十分な調査分析を行った上で、商品の選択、商品価格の設定、PR方法などを十分に検討
- 合わせて、タイ人消費者の持つ物価感覚を意識することが重要

## (参考)所得と味の嗜好



## (参考)タイ人消費者の物価感覚

	タイ		日本
● コーラ	17バーツ	→	150円
● ビール	35バーツ	→	220円
● 昼食代	50バーツ	→	500円
● パン	20バーツ	→	150円

「価格 (バーツ)」× 8倍 = ○○ (円)  
タイ人消費者の金銭感覚

## (参考) Thaifex展示会の概要

### ○ 見本市概要

- 日 程： 2018年5月29日～6月2日(5日間)
- 会 場： IMPACT Exhibition Center
- 来場者数： 62,039人
- 出展者数： 2,537社(41カ国)

### ○ ジャパンパビリオン(ジェトロ主催)

- 日 程： 2018年5月29日～ 6月2日(5日間)
- 出展者数： 78社・団体
- 出品物： 和牛、水産物・水産加工品、菓子、調味料、茶、酒類等



写真： ジェトロ撮影

## (参考) 食品・農水産物商談会

日本産農水産物・食品輸出商談会 in バンコク

日程： 2017年10月17日・18日

場所： ザ アテネホテル (タイ、バンコク)

出展企業： 65社・団体

主催： ジェトロ

来場バイヤー数：約300社



写真： ジェトロ撮影

# 新たなニーズや取組み

# タイを拠点とした第三国輸出の例（ツナ缶）

日本からタイへ原料である冷凍マグロなどを輸出

タイ国内において、タイ系、日系企業により、ツナ缶等に加工

タイで生産されたツナ缶等を第三国に輸出

日本

タイ

第三国  
(中東、欧米等)

冷凍マグロ等の輸出

1,200百万バーツ  
(2016年)

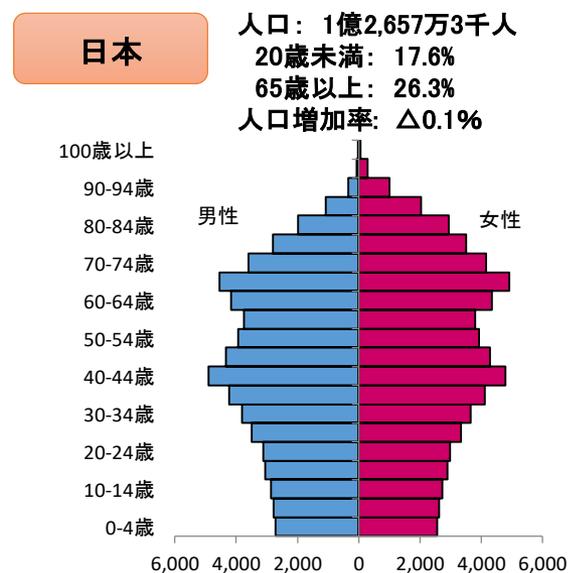
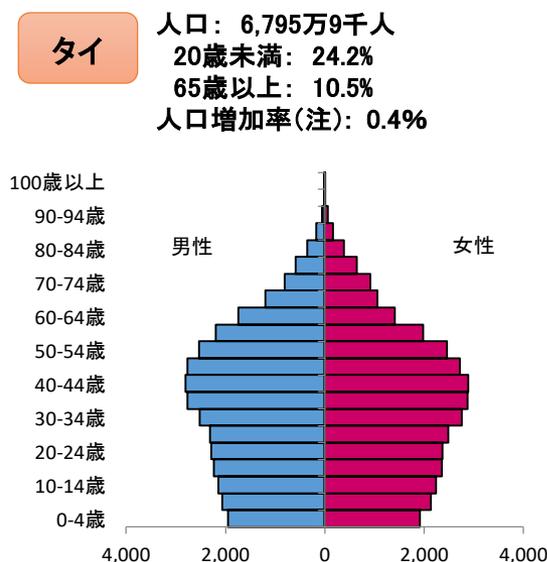
ツナ缶等の輸出

64,094百万バーツ  
(2016年)

タイで生産された加工食品の第三国輸出の増加が  
日本からの原料輸出を促進する可能性

# タイにおける高齢化への対応

- タイ国の出生率は約1.5であり日本(同約1.4)と同様低い水準となっている。今後10年から20年程度でタイも高齢化社会に移行
- 今後は、高齢者向け商品や介護商品の需要が高まることが予想されるとともに、健康意識も高まることが予想される
- 日本と同様、高齢者向け食品や病院・介護食品の需要が高まると思われ、当該分野で先行している日本の食品加工技術が注目されている
- またタイ人女性は美容、特に美白に拘る傾向が強いと言われており、美容を意識した機能性食品も期待。



(注)人口増加率: 2005-2010年間の年平均増加率、図の単位は全て千人

(出所): 国連 世界人口予測(2015年改訂版)

# タイにおける食品関連のECサイト

- タイ系、日系ともに食料品に関する各種ECサイトが立ち上がっている
- 一部サービスでは地域を限定しているところもあるが、特にタイ系では都市部を中心にタイ全国で広範なサービスを開始している
- 日本産食品(加工食品、青果物、酒など)の取り扱いもあり
- 一方、交通渋滞による遅延、配達時の不在等の課題から、現状では常温商品や品質保持期限の長い商品の取り扱いが主流。一部のエリア(日本人居住エリア)や企業では、生鮮食品の配達の実績もあり

## ○主なECサイトの例(日系、タイ系)

社名	取り扱い商品	対象エリア
アサンサービス(日系)	酒類中心、加工食品も取り扱い	主にスクンビットエリア
Shop Channel(日系)	化粧品、日用品など	タイ全土への配送可
Tops SHOP ONLINE(タイ系)	日用雑貨、飲料、食料品全般 (生鮮食品なし(肉、魚など))	バンコク都市圏全域及び国内主要都市を中心としたエリア
Tesco Lotus(タイ系)	日用雑貨、飲料、食料品全般 (生鮮食品あり(肉、魚など))	バンコク及びチェンマイ、チョンブリなどを含む8都県
Big C(タイ系)	日用雑貨、飲料、食料品全般 (生鮮食品なし(肉、魚など))	バンコク、ノンタブリ、チョンブリ、パタヤなど8都県
Iyara Premium Fruit(タイ系)	果実(国内品、輸入品)	バンコク都市圏(自社配送) 地方都市(空港引き取り)

# 冷凍、冷蔵技術を利用した輸送コストの縮減

- 青果物や鮮魚などは、品質や安全性を保つため、消費者の手に届くまでの鮮度維持が重要。  
→冷蔵品は航空便で送るのが常識【高コスト】
- 日本産食品の中には、冷凍コンテナでの輸送も可能(和牛、魚類)なものもあり、低コストでの輸送が可能  
→冷凍による品質の劣化(ドリップ、冷凍焼けなど)



輸送手段の多様化や輸送技術の革新により、品質等を維持しつつ、低コストでの日本産食品の輸送が可能。

- 航空貨物価格の低減(発着時間の拡大、LCCなど)
- コンテナ内の空調管理の高度化  
(例: CA (Controlled Atmosphere))
- 冷凍技術の向上(例: CAS (Cells Alive System))
- 鮮度維持水

**【免責事項】**

ジェトロは、本資料の記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害及び利益の喪失については、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かにかかわらず、一切の責任を負いません。これは、たとえ、ジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

本資料は信頼できると思われる各種情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ジェトロは、本資料の論旨と一致しない他の資料を発行している、または今後発行する可能性があります。

本資料には、ジェトロの公式見解ではなく外部委託先の論考、意見が含まれます。これらについてジェトロは一切の責任を負うものではありません。